

## 第8章 推進体制・進捗管理

### 1 推進体制

本計画に掲げる温室効果ガス排出量の削減目標の達成、また、2050年のカーボンニュートラルを実現するためには、県民、事業者、行政の各主体がそれぞれの役割を認識し、連携・協力しながら、岡山県全体として地球温暖化対策に積極的に取り組むことが重要です。

計画の推進にあたっては、県市町村連携組織、「エコパートナーシップおかやま」や「地域脱炭素創生・岡山コンソーシアム」などの産学官金連携組織による連携の下、地球温暖化対策に向けた取組を推進します。

なお、県民、事業者、市町村に期待される取組については、第6章4、第7章4に記載しています。

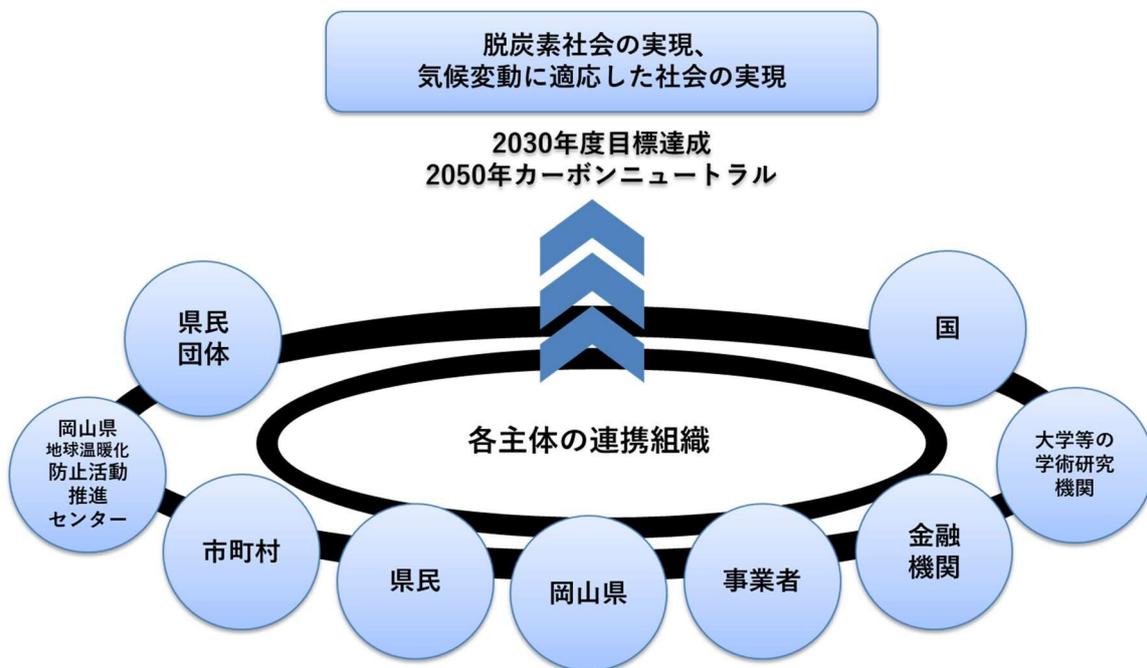


図 8-1 推進体制のイメージ

## 2 進捗管理

温室効果ガス排出量を経年的に把握することに加え、本計画に掲げた施策等の目標の実績値を確認することにより実施します。

進捗点検・評価について、庁内においては、部局横断の組織である環境基本計画推進連絡会議において、各部局の取組の進捗状況等を点検します。

また、学識経験者や県民、事業者、行政の各種団体等の推薦する者を委員として、地球温暖化対策の推進のために設置された「岡山県地球温暖化防止プロジェクト推進会議」において、客観的な本計画の進捗の点検・評価を実施します。

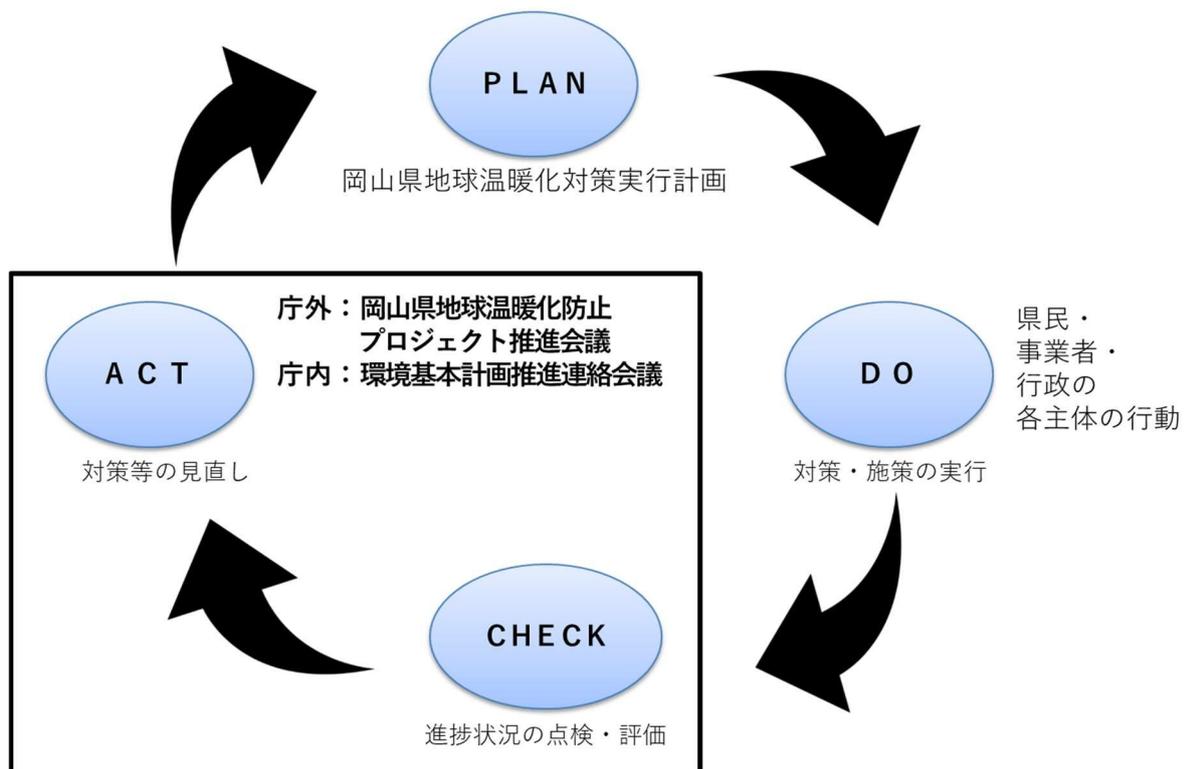


図 8-2 進捗管理のイメージ

## 3 計画の見直し

国が2020（令和2）年10月に「2050年カーボンニュートラル」を宣言して以降、国内の脱炭素に関する取組は加速化しており、今まさに、各分野で様々な取組が進められている状況です。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やロシアによるウクライナ侵攻といった、世界のエネルギー情勢に大きく影響を与える事象も発生しており、2030（令和12）年度までには、脱炭素を取り巻く社会情勢も大きく変化していくことが予想されることから、2030（令和12）年度までの中間点である2026（令和8）年前後に計画の見直しを行うこととします。